教育実習事前・事後プログラムの開発・実施・評価に関する研究

― グループワークを中心にした教育実習生訓練プログラム ―

研究開発担当者

熊本大学教育学部

助教授　吉　田　道　雄

教　授　佐　藤　静　一

教　授　荘　口　博　雄

1994年３月

はじめに

熊本大学教育学部附属教育実践研究指導センター（以下センターと略称する）では、２年生を対象に行われる教育実習（Ｉ）を担当している。ここではそのうち、「グループ・ワーク」の開発と実施、評価についての研究成果を報告する。

「グループ・ワーク」の導入

センター実習にグループ・ワークが導入されたのは平成元年度（1989年）である。まず、その導入の経緯について説明をしておきたい。

もともとセンター専任スタッフの一人がグループ・ダイナミックスを専攻し、とくに、「リーダーシップ・トレーニング」を中心的なテーマとして研究をすすめていた。そのため、現職教師や実習生の「リーダーシップ」の改善、向上を目的とした「リーダーシップ・トレーニング」を開発したいという希望を持っていた。そうした状況の中で、教育実習の改革に伴い、センターが２年生を対象にした実習に直接かかわりを持つ機会が与えられたのである。そこで、ただちに２年実習（Ｉ）のなかで、実習生の「リーダーシップ・トレーニング」を開発・設計することになった。

「グループ・ワーク」の流れと効果

「グループ・ワーク」としてこれまでに作成・実施されたコース・スケジュールのいくつかを挙げたものが図１～図３である。手書き文字の入ったものはやや見にくいが、「グループ・ワーク」は生き物であり、その時に応じてプログラムを改善・変更している雰囲気が伝わるだろう。なお、図４は看護系教員を対象にして行った、「グループ・ワーク」のプログラムである。この場合は、実習と異なり日程も余裕を持ってとれるというメリットがあり、それに応じた効果も期待することができる。今後はこうしたコースを教育実習に導入することも必要だろう。

以上のように、一口に「グループ・ワーク」といってもさまざまなバリエーションがあるが、ここでは１日のコースの代表的な流れと、そこで得られた結果について報告する。また「グループ・ワーク」の実践を通して開発・作成された質問紙票、シートなどの各種のツールも紹介する。

１．オリエンテーションとグループ分け

「グループ・ワーク」の目的について簡単な説明をし、できるだけ知らないメンバーから構成されるように、「じゃんけん」をしながらグループ分けを行う。「異質集団の方が等質な集団よりも望ましい効果が多い」といった研究報告なども、メンバーをランダムに構成する理由である。「グループ・ワーク」のような集団活動にあたっては、できるだけ”知らないメンバー”から構成される集団をつくること

１９９１年度　２年実習（１）

『グループ・ワーク』

（９月３日～５日）

時　間	９月４日（WED）	９月５日（THU）
８：４０		
	オリエンテーション {6人×5gr / 5人×4gr	オリエンテーション
９：００	9.00	9.03
	マイクロラボラトリー	マイクロラボラトリー
	『自分を知らせる、他人を知る』	『自分を知らせる、他人を知る』
	名前1分 こども2分 気持ち2分…	名前、こども、気持ち… 90秒
１０：００	9.40『あなたの印象…』	9.45『あなたの印象…』
	10.06 休憩	10.00 休憩
	10.15 規範ゲーム	規範ゲーム
	『集団の力を考える』	『集団の力を考える』
１１：００	10.55 休憩	10.49 休憩
	11.05 講義	10.55 講義
	『教師に求められる リーダーシップ』	『教師に求められる リーダーシップ』
		11.35 休憩
１２：００	12.00	11.40 BS → 目標項目数を提示する
	昼食・休憩	12.15（終了まで） 昼食・休憩
１３：００	1.00	1.15
	GW 1.20 BSスタート	GW
	『わたしたちに求められる行動・態度・考え方・姿勢・心構え』	『わたしたちに求められる行動・態度・考え方・姿勢・心構え』
１４：００	2.04 MBS ～ カード転記（2.35まで 調整休憩）	1.30 カード転記
	KJスタート	1.55 KJスタート
	2.47 KJスタート	2.30 標題（3:10までに完成）
１５：００	3.15 標題	3.17 仕上げ（空間配置）スタート
	3.45 仕上げまで説明（目標4.30）	
１６：００	成果見学 仕上げは一時中断	4.28 成果見学
	4.35 自己決定・決定表明 4.45	4.35 自己決定・決定表明
	4.55 ポート	4.55 ポート
１７：００	仕上げ 2gr 5.45（last）	最終了 5.20

図１．「グループ・ワーク」コーススケジュール（1991年版）

１９９２年度　２年実習（１）

『グループ・ワーク』

（９月５日．７日．８日．９日．１０日）

時　間	９月７日（ＭＯＮ）	９月８日（ＴＵＥ）
８：４０	8.30	
９：００	オリエンテーション（グループ分け） 6人×7gr=42 7人×1gr=7 } 49名	オリエンテーション（グループ分け）
１０：００	8.55 マイクロラボラトリー 『自分を知らせる、他人を知る』 名前、こども、気持ち… 9.30『あなたの印象…』 9.55 実習生サーベイ 10.00 休憩	マイクロラボラトリー 『自分を知らせる、他人を知る』 名前、こども、気持ち… 『あなたの印象…』
１１：００	10.10 絵あわせ 『効果的な集団活動』 10.40 再視 11.35 正解・解説	絵あわせ 『効果的な集団活動』
１２：００	12.10	
１３：００	昼食・休憩	昼食・休憩
１４：００	1.05 ＧＷ 『わたしたちに求められる行動・態度・考え方・姿勢・心構え』 2.00 カード転記 ＫＪスタート 2.10 休憩 2.20 KJ	ＧＷ 『わたしたちに求められる行動・態度・考え方・姿勢・心構え』 ＫＪスタート
１５：００		
１６：００	成果見学 4.35 自己決定・決定表明 4.55 実習生サーベイ 5.05 レポート	成果見学 自己決定・決定表明 レポート
１７：００		

図２．「グループ・ワーク」コーススケジュール（1992年版）

１９９３年度　２年実習（Ｉ）

『グループ・ワーク』

（９月８日，９日，10日）

時　間	９月８日（WED）	９月９日（THU）
８：４０	6人×4班 7人×6班	6人×8班 7人×2班
	オリエンテーション（グループ分け）	オリエンテーション（グループ分け）
９：００	9.30 マイクロラボラトリー 『自分を知らせる、他人を知る』 名前、こども、気持ち…	9.10 マイクロラボラトリー 『自分を知らせる、他人を知る』 名前、こども、気持ち…
１０：００	10.15 『あなたの印象…』 10.45 休憩	『あなたの印象…』 10.20 休憩
	10.55 絵あわせ 『効果的な集団活動』	10.30 絵あわせ 『効果的な集団活動』
１１：００	はり出し，見学ツアーまで	
１２：００	12.25 休憩	12.25 休憩
	昼　食　・　休　憩	昼　食　・　休　憩
１３：００	1.15 総合せ解説 ＧＷ 『わたしたちに求められる行動・態度・考え方・姿勢・心構え』	13.10 ＧＷ 『わたしたちに求められる行動・態度・考え方・姿勢・心構え』
１４：００	2.15 転記 2.30 ＫＪスタート	1.50 転記 ＫＪスタート
１５：００	2.45 休憩	
１６：００	4.30 成果見学	発表 各1分 成果見学
	4.35 自己決定・決定表明	4.45 自己決定・決定表明
１７：００	4.55 レポート	5.00 レポート

図３．「グループ・ワーク」コーススケジュール（1993年版）

看護教員養成講習会

	Step 1		基礎研修	
	7月26日（MON）		7月27日（TUE）	
9 :00	☆ オリエンテーション ☆ 情報セッション 《 集団の力学 》 ①集団圧力 （日総研） ②規範づくり		☆ 体験実習 《リーダーシップを考える》 ①タングラム	
10:00	☆ 効果的な集団活動 《 絵合わせ 》			
11:00	《 相互評価 》		☆ 情報セッション 《新人類を考える》 ①新人類と動機づけ ②欲求の変化	
12:00	昼　食　（休憩）			
13:00	《 絵合わせ解説 》 ①解説 ②集団発達 《 相互評価集計 》		☆ 徹底分析（I） 《受講生としての私の課題》 － わたしの課題 ここを克服しよう － （KJ5枚）	
14:00	《 リーダーシップ 》		☆ 意思決定 《行動目標の決定》 ①自己管理表作成 ②目標の表明 ☆ フォロー研修へ向けて	
15:00				

図4．看護系教員を対象にした「グループ・ワーク」コーススケジュール

が重要だと思われる。

2．ウォーミングアップ

さて、こうして参加者は9つのグループに分けられた。グループができれば、「まずは自己紹介」ということになる。しかしただ、「自己紹介をしてください」ということでその進行をグループに任せると、ある者は長々と話し、また別のメンバーは名前を言うだけで終わってしまうといったように、メンバー間に大きな偏りが出ることが少なくない。話したいメンバーも自分の話を整理し、話したくない者も、自分を表現し伝える努力をする。こうした態度や技術は、教師にとってはとくに欠くことのできないものである。そこで、「グループ・ワーク」ではメンバーの自由に任せずに、「自分を知らせる、他人を知る技術」を身につけるということで、話すテーマと一人あたりの時間を与えることにした。今回採用したテーマと時間は、「1．わたしの名前は…、つけてくれた人、その由来…（1分）」「2．わたしがこどものころは…（2分）」「3．実習をむかえた今の気持ちは…（2分）」の3つである。一度にテーマを与えず、全メンバーが一つのテーマについて話し終えたと思われるころを見計らって次のテーマを黒板に書いていった。こうした手法は、「マイクロラボラトリー」などという呼び名で、ウォーミングアップに使われている。

実習生のレポートから

この最初の課題は実習生にどのようなインパクトを与えたのだろうか。「グループ・ワーク」終了後に回収したレポートから、この部分に触れたものをいくつかあげてみることにする。

・自分を表現するのがいかに下手であるかをつくづく実感させられた
・まわりの人は自分のことをこんな風に見ているのかと驚いた
・いつもはうまく話せないのに、テーマが与えられると、気負うことなく話せた
・いままで知らなかった人の印象を伝えることは楽しいと同時に責任も感じた
・自己紹介がこんなにスムーズにできるものかと感動した
・口数が少ない人からもいろいろなことが聞けた

3．集団実験

グループにまとまりが見えはじめたところで、グループ全員が参加する課題を与えた。課題の内容はＯＨＰで、点の集合パターンを瞬間的に提示し、その数をあてることである。われわれが用いた例では、実際には191個の点があるのだが、提示時間が短いので、正確に数えることはできない。メンバーはそれぞれが推測する数字を記録係に伝える。記録係は全メンバーの数値を記録用紙に記入する。記録係は最後に自分の考える数値を記入する。こうして同じことを6回繰り返す。この課題は、 Sherif,M （1936）が行った同調の実験と同列のものであるが、基本的には同調の圧力によって、メンバーの意見がある一定の値に近づいていくことを具体的な

数値の変化によって示すことができる。

実習生のレポートから
・グループの人たちが少しずつ影響しあっていくという現象に感動した
・個人がまわりの意見に影響を与えられることを体験をとおして考えられた
・自分の考えでいこうと思っていたが、結構、人の意見に影響を受けてしまった
・自分たちのグループでにはお互い同調しない人が多く、興味深かった
・こんな簡単な実験で、グループと個人の関係や雰囲気がわかるのは不思議だ
・自分の考えを通すより、他人と近い意見を持つ方が安心することを実感した
・グループはエネルギーを持っているものだと感じた

4．情報提供（講義）

「グループ・ワーク」では、メンバーの積極的活動が中心になる。「ウォーミングアップ」や「集団実験」もそうした活動を基礎にすすめられる。そのことで、メンバーは積極的に行動し、グループの力も十分に引き出される。ただ、活動が中心になるだけに、対人（こどもとの）関係や集団に関する知的な理解は十分に得られない。そこで、こうした情報の不足を補足するために、学級集団におけるグループダイナミックスを中心に、情報提供（講義）を行った。

5．グループ・ワーク

いよいよスケジュールのメインである。全体を「グループ・ワーク」と呼んでいるが、実質的にはこの部分を「グループ・ワーク」というべきだろう。最終的には、具体的で実行できるような行動目標を立てることを目指す。実習生に少しでも役に立つもの、インパクトの強いものになることを考えて、「実習生としてのわたしたちに期待されている行動、態度（考え方、心構え）」を探るというテーマを設定した。これをブレーンストーミングとカードによる分類・整理によって分析していく。

ブレーンストーミング

広用紙に、「実習生としてのわたしたちに期待されている行動、態度、（考え方、心構え）」をできるだけ多くあげるように指示した。期待の主体として、「こども」「教師」「大学」などを念頭において、どのようなことが具体的に求められているかを考えるようにはたらきかけた。

実習生のレポートから
・一人で意見を言うのは苦手なので、意見が出しやすく良かった
・短時間に多くの意見が出せたことに驚いた
・いつもはまわりを気にして意見が出せないということがわかった
・意見がたくさん出てくると、団結力も生まれるということがわかった
・批判されないとなると、楽に発言できると思った
・40以上も項目を出すのに苦労した

カードによる分類・整理（ＫＪ法）

カードによる分類・整理にあたってはＫＪカードを使用した。情報のの分類・整理までのすべてを４～５時間でこなさなければならないために、ＫＪ法といってもきわめて簡略化したものになる。したがって、厳密にはＫＪ法と言うよりも、カードを使って情報の分類・整理を試みたといった方が正確であろう。しかし以下のように、まとめまでの流れは一応のステップを踏んでいる。

①カード作り

ブレーンストーミングの見直しの結果整理された項目をカードに転記する。このときは、ブレーンストーミングの際にふっていた番号は記入しない。全員で分担してカードに転記していく。

②カードを眺める

カードができあがったら、広用紙の上にバラバラに広げる。それを全員でじっくり眺め、どのような内容のカードがあるかを確認する。

③カードの分類

分類にあたっては、ＫＪ法を実施する際に提示されるいくつかのガイドラインを伝えた。

④島に標題をつける

⑤空間配置

⑥仕上げ

⑦結果の発表

完成した各グループの成果を部屋のまわりに張り出す。その結果の一部を挙げておこう（図５，図６）。

実習生のレポートから

・一人一人の考えが一つにまとまっていくことがすばらしかった
・まとめることは大変だったが、みんなで力を合わせていることが印象的だった
・できあがったときは一生懸命やっただけにとてもうれしかった
・こんなに本気で話し、聞いてもらったことは初めてだった
・みんなの目が輝いているのを見て、自分もそんな目をしているのかなと思った
・時間があっという間に過ぎてしまった

６．行動目標の設定

最後は各人で行動目標を設定する。半日をかけて分析してきた、「実習生に求められる行動、態度…」の期待に応えるために、自分自身がこれから実行していくべき行動を決めるのである。期限があいまいだと行動もしにくいので、一応この一ヶ月という期限を設けた。行動目標の設定には図７のシートを使用した。メンバーの前で行動目標を表明し、一人一人から、「頑張れサイン」をもらうという手続きを踏む。決めたことを少しでも実行して欲しいという願いを込めた演出である。ここ

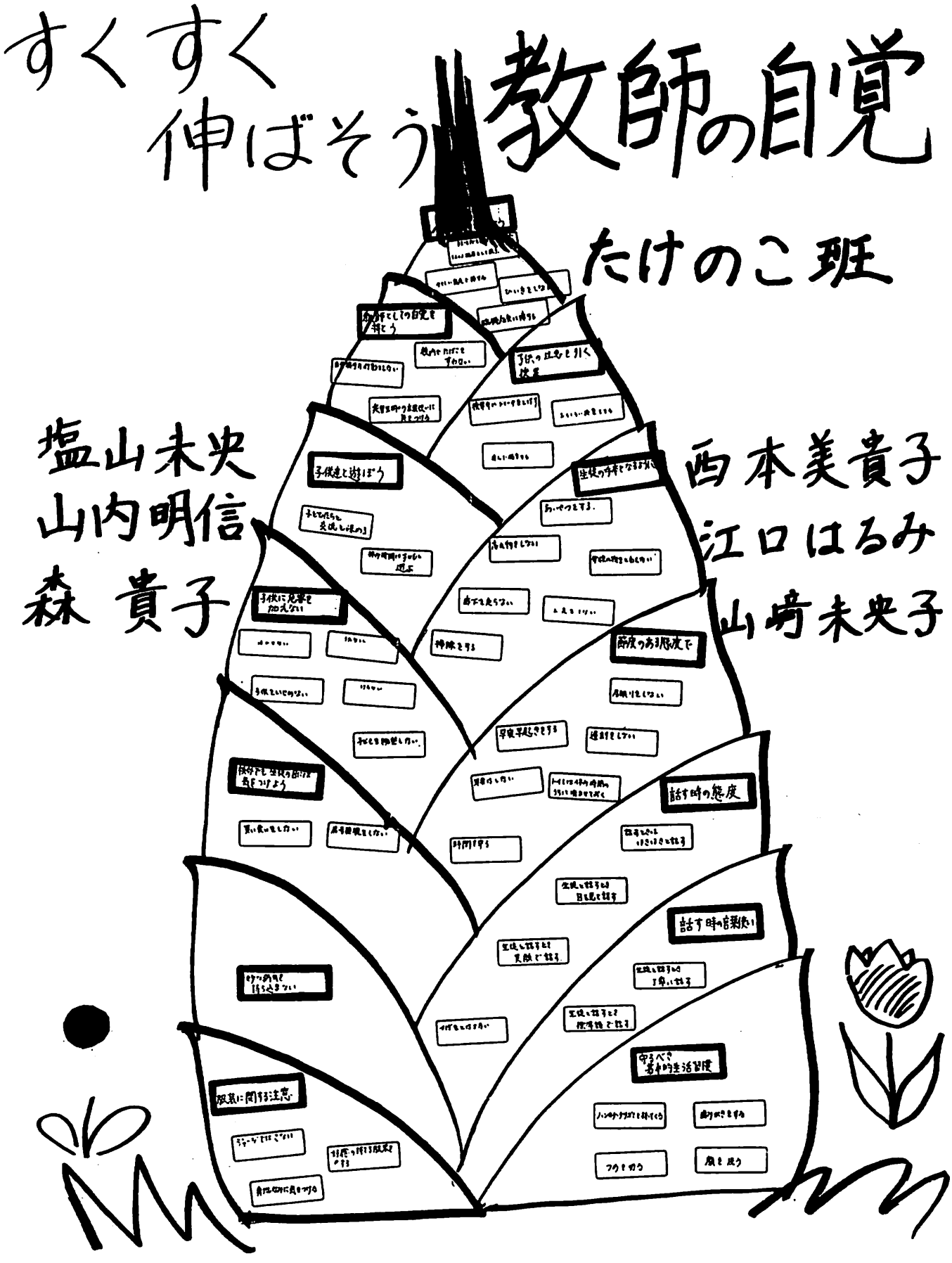

図5．テーマ：「求められる実習生」の分析結果（その1）

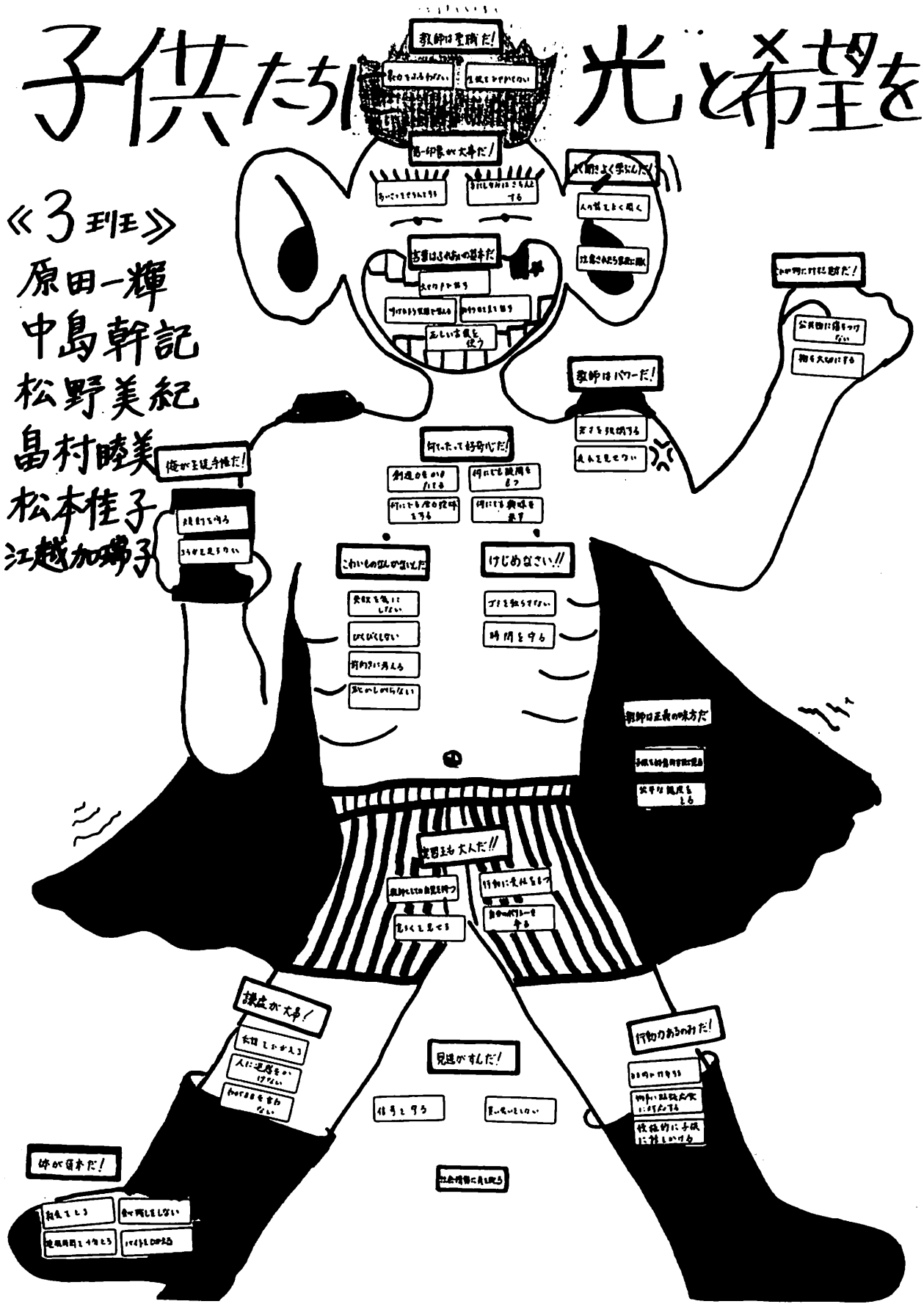

図6．テーマ：「求められる実習生」の分析結果（その2）

わたしの行動計画

グループ		学科・課程		氏　名	

実行期間：　　年　　月　　日～　　月　　日

[　目標行動の決定　]

「必ずできる」「しなければならない」と思う行動を考えます。
期間内にできることを条件に、とにかくトライしてみましょう。

実践行動　（なにを，いつ，どこで，だれに，どのように，どの程度・・）

[　実践に移す具体的行動　]

うまくいかないときにはメンバーに相談します

[　他のメンバーの決意　]　メンバー名と決定事項を記録しておきます
うまくいっていないようなときには応援します

メンバーの頑張れサイン							

図7．行動計画シート

では、実習生が決めた行動の目標のいくつかをあげておこう。

わたしは一ヶ月間…
・先生・生徒その他、近所の人に元気よく挨拶をする
・知っている人にあったら、自分から笑顔で挨拶する
・正しいことばづかいができるよういつも気をつける
・いやな顔、疲れた顔など、人が嫌悪感を抱く表情をしない
・新聞を読み、社会情勢に気をつける
・夜11時に就寝し、朝7時に起きる
・黒板の字がうまく書けるよう練習する
・交通ルールを守る
・人との約束や、決まっているスケジュールの時間を守り続ける
・できるだけ漢字で表現して、誤字・脱字をなくすよう心がける

7．実習生の評価

すでに、実習生が提出したレポートから関連のある部分は適宜引用してきた。ここでは、「グループ・ワーク」全体に関わりのあるものをいくつか取りあげておこう。

・自己紹介の時から、「これはいけるぞ」という感じがして、最後までその勢いでいったような気がする。
・みんなが自分の意見を受け入れてくれるような雰囲気があって、このグループの一人一人に出会えてほんとうによかった。
・けっこうハードなスケジュールだったが、楽しくあっという間に時間がたってしまった。教えられた「グループ・ワーク」も取り入れて、生徒とのふれあいを高めていきたい。
・作業をしていく上で、もっと積極的な行動がとれたらなということを実感した。こうした欠点をなくして、実習では一生懸命にがんばりたい。
・これからの実習でも、「グループ・ワーク」でいっしょになった人がいると思うと安心して実習に臨めるような気がする。
・実習生としてしなければならないことがいっぱいあるのに気づき、教師の仕事のむずかしさを感じさせられた。
・第一志望から回されて「グループ・ワーク」に参加したが、こどもとの接触や日常の生活についていろいろ勉強ができた。終わってみたら、回されてよかったと思っている。

このように、「グループ・ワーク」の体験については肯定的な感想が多くあげられている。したがって、「グループ・ワーク」は実習生から一定の評価を得ていると考えてもいいだろう。

また、レポートの最後に、「今日と同じようなコースがある場合には、あなたは

それに参加したいと思いますか」という質問をした。選択肢は「1．ぜひ参加したい」「2．できるだけ参加したい」「3．参加してもいい」「4．あまり参加したくない」「5．まったく参加したくない」の5つである。結果は表1のとおりである。男女に若干のちがいがみられるが、全体で、「1．ぜひ参加したい」が26.6%、「2．できるだけ参加したい」が55.1%で、積極的な回答が圧倒的に多い。これに対して、「4．あまり参加したくない」はわずか2名（1.3%）に過ぎず、「5．まったく参加したくない」と答えたものは一人もいない。あえて、「3．参加してもいい」の27名（17.1%）は否定的なニュアンスも含まれていると考えても、80%以上の参加者が「1．ぜひ参加したい」「2．できるだけ参加したい」と回答しているのである。こうしたことから、「グループ・ワーク」が実習生に対して、それなりのインパクトを与えたといっていいだろう。

表1．同じようなコースに対する参加希望

	1	2	3	4	5	計
男　子	19	22	6	1	0	48
（%）	(39.6)	(45.8)	(12.5)	(2.1)	(0.0)	
女　子	23	65	21	1	0	110
（%）	(20.9)	(59.1)	(19.1)	(0.9)	(0.0)	
計	42	87	27	2	0	
	(26.6)	(55.1)	(17.1)	(1.3)	(0.0)	

参考文献

松本　敬子・吉田　道雄　1993　養護教諭実習生のリーダーシップに関する実証的研究　熊本大学教育学部紀要，第42号，人文科学，199-208.

吉田　道雄　1988　リーダーシップとトレーニング（安藤延男編　人間関係入門，第19章　226-236）ナカニシヤ

吉田　道雄　1989　教育実習生のリーダーシップ測定項目の作成と妥当性の検討－ＰＭ式リーダーシップ測定項目の再整理－　日本教育工学雑誌，Vol.13，No.1，21-27.

吉田　道雄　1989　リーダーシップトレーニングにおける自己決定の分析　自己決定の内容とその実践結果について　熊本大学教育学部紀要，第38号，人文科学，295-302.

吉田　道雄　1992　中学校における担任・非担任学級の生徒に及ぼす教師のリーダ

ーシップ　熊本大学教育学部紀要，第41号，人文科学，227-237.
吉田　道雄　1992　教育実習生に対するリーダーシップトレーニング　日本教育心理学会第34回大会論文集301.
吉田　道雄・吉山　尚祐・三隅二不二　1991　ＰＭ理論に基づくリーダーシップトレーニング　日本心理学会第55回大会論文集704.

資料1　教育実習生に対するアンケート調査

（実習事前・事後、学年ごとに評価可能）

1．あなたは、教育実習で子供たちとの人間関係を、
どの程度うまくやっていけると思いますか。
5　非常にうまくやっていけると思う
4　かなりうまくやっていけると思う
3　大体うまくやっていけると思う
2　あまりうまくやっていけないと思う
1　うまくやっていけないと思う

2．あなたは、教育実習で受け持つ授業で、子供たちに
どの程度うまく教えることができると思いますか。
5　非常にうまく教えられると思う
4　かなりうまく教えられると思う
3　大体うまく教えられると思う
2　あまりうまく教えられないと思う
1　うまく教えられないと思う

3．あなたは、教育実習で指導担当の先生との人間関係を、
どの程度うまくやっていけると思いますか。
5　非常にうまくやっていけると思う
4　かなりうまくやっていけると思う
3　大体うまくやっていけると思う
2　あまりうまくやっていけないと思う
1　うまくやっていけないと思う

4．あなたは、教育実習で指導担当の先生の期待に、
どの程度応えることができると思いますか。
5　非常によく応えられると思う
4　かなりよく応えられると思う
3　大体よく応えられると思う
2　あまり応えられないと思う
1　応えられないと思う

5．あなたは、全般的に見て、教育実習を
うまくやっていけると思いますか。
5　非常にうまくやっていけると思う
4　かなりうまくやっていけると思う
3　大体うまくやっていけると思う
2　あまりうまくやっていけないと思う
1　うまくやっていけないと思う

6．あなたは、教師としてふさわしい知識・技術を、
現在どの程度持っていると思いますか。
5　十分持っていると思う
4　かなり持っていると思う
3　大体持っていると思う
2　あまり持っていないと思う
1　持っていないと思う

7．あなたは、子供が好きですか。
5　非常に好きである
4　かなり好きである
3　どちらともいえない
2　あまり好きではない
1　好きではない

8．あなたは、教職に就くことをどの程度
志望していますか。
5　ぜひとも教職につきたい
4　できるだけ教職につきたい
3　できれば教職につきたい
2　あまり教職につきたいとは思わない
1　教職につきたいとは思わない

9．あなたは、教師（実習生）にとって必要な資質は
何だと思いますか。
思いつくものを自由にリストしてみて下さい。

10．あなたは、子供たちは教師（実習生）に対して
どのような期待を持っていると思いますか。

資料2　実習校教師に対するアンケート調査

○○学校の先生方へ（お願い）

実習ではたいへんお世話になりました。お手数ですが、それぞれ実習生の実習中の行動につきまして、以下の質問にお答えいただきますようお願いいたします。

クラス		実習生名	

1. 子どもたちと遊ぶなど、できるだけふれ合うよう努力していましたか

5. 非常に努力していた
4. かなり努力していた
3. ある程度努力していた
2. あまり努力していなかった
1. ほとんど努力していなかった

2. 子どもたちにうまく対応するよう努力していましたか

5. 非常に努力していた
4. かなり努力していた
3. ある程度努力していた
2. あまり努力していなかった
1. ほとんど努力していなかった

3. 子どもたちを理解するよう努力していましたか

5. 非常に努力していた
4. かなり努力していた
3. ある程度努力していた
2. あまり努力していなかった
1. ほとんど努力していなかった

4. 遅刻をしないなど、時間を守っていましたか

5. いつもきちんと守っていた
4. かなり守っていた
3. ある程度守っていた
2. あまり守っていなかった
1. ほとんど守っていなかった

5. 指示された期限があるものは、それをきちんと守っていましたか

5. いつもきちんと守っていた
4. かなり守っていた
3. ある程度守っていた
2. あまり守っていなかった
1. ほとんど守っていなかった

6. 事前・事後指導などはまじめに受けていましたか

5. 非常にまじめだった
4. かなりまじめだった
3. ある程度まじめだった
2. あまりまじめではなかった
1. ほとんどまじめではなかった

7. 授業の準備にまじめに取り組んでいましたか

5. 非常にまじめだった
4. かなりまじめだった
3. ある程度まじめだった
2. あまりまじめではなかった
1. ほとんどまじめではなかった

8. 指導案は評価できるものでしたか

5. 非常に評価できた
4. かなり評価できた
3. ある程度評価できた
2. あまり評価できなかった
1. ほとんど評価できなかった

9. 授業技術は評価できるものでしたか

5. 非常に評価できた
4. かなり評価できた
3. ある程度評価できた
2. あまり評価できなかった
1. ほとんど評価できなかった

10. 実習生としての自覚は感じられましたか

5. 非常に感じられた
4. かなり感じられた
3. ある程度感じられた
2. あまり感じられなかった
1. ほとんど感じられなかった

11. 実習にまじめに取り組もうとする意欲が感じられましたか

5. 非常に感じられた
4. かなり感じられた
3. ある程度感じられた
2. あまり感じられなかった
1. ほとんど感じられなかった

12. 全体的にみて実習生としての評価か値はいかがでしょう

5. 非常に評価できる
4. かなり評価できる
3. ある程度評価できる
2. あまり評価できない
1. ほとんど評価できない